

ヤマト福祉財団NEWS

Yamato Welfare Foundation 2007 Summer

7月20日発行 No15

おかげさまで10年 スワンのこれから



写真左より、弓束陽子スワンベーカリー銀座店店主、設立当初からのスタッフの中嶋真由美さん、大崎みえ子さん、相馬大介さん、海津歩株式会社スワン代表取締役社長

福祉はロマンだ! Series07

ヤマト福祉財団賞 受賞者は今…

渋谷の街中にあざやかに 福祉の虹を描くパレット

谷口奈保子さん 特定非営利活動法人 ぱれっと理事
ぱれっとインターナショナル・ジャパン代表

小倉前理事長を偲ぶ ~三回忌によせて

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便
配達

~僕たちには、
何もする仕事なかった~

スワンネットつながるビジネス

干しいたけの生産から販売まで—
障がい者の手で急成長

おかげさまで

10年



スワンのこれから

スワンベーカーリー銀座店がオープンして、6月で10年目の節目を迎えました。スワンのつぎへ向けた飛躍と挑戦について、ヤマト運輸株式会社CSR部社会貢献課・村橋係長が、スワンの海津社長にお聞きしました。

試行錯誤を繰り返しつつ 一定の成果を生んだ10年

村橋 10年目を迎えるスワンですが、設立のきっかけから教えてください。

海津 宅急便を世に送り出した小倉昌男氏が自らの私財を投じて、ヤマト福祉財団を設立しました。障がい者の月給が1万円と聞いて愕然としたからです。財団は障がい者の経済的自立支援を理念に活動を始め、その後、全国に「アンデルセン」ブランドを展開するタカキベーカーリーの賛同を得て、小倉前理事長が、自らの理念を実践するために創業したのが当社です。私は2年前に社長に就きました。

村橋 現在の規模はどれ位です

か？

海津 試行錯誤の連続ではありましたが直営店が3店舗。志に共感して参加されたチェーン店が全国で20店舗になります。でもフランチャイズというこ

長所を伸ばし、能力を伸ばし 達成感と自立をつかむ欲び

村橋 苦労なさった点は？

海津 ちゃんとマーケティングして売れる商品をつくるという、ごく普通のことをしている上でとくに苦労を感じたことはありません。もちろん最初は戸惑いもありましたけど(笑)。

とではなくて、ロイヤリティーをいただいでいないんです。パン製造の技術研修などのサポートも無償で、かなりの部分で、各店の自主性を尊重しています。肝心の雇用割合ですが、現在には精神・身体・知的・重度を含め、全店で総勢215名の障がい者と149名の健常者が協力して働いています。

じつはいますターバックスさんですが、カフェで障がい者を雇用するにはどうすればいいのか、そのテストを当社で行っています。店舗スタッフの総数は変えずに生産性も維持しつつ、障がい者に入ってもらえる仕組みづ



1号店オープニングのパンカット。(1998年6月16日)

左より、当時のヤマト運輸・有富社長、小倉理事長、タカキベーカーリー・高木社長

くりの調査協力ですが、結局辿りつくのは「障がい者には彼らのできることをちゃんとやってもらう」ということです。

スワンでは障がい者にも健常者にも「いまの自分でいいから、ベストを尽くしてくれ！」と言っています。

人間誰しも得手不得手がありますよね。僕もよく女房から、人の話を聞かないと言われます（笑）。ただ、障がいのある方は不得意が顕在化しているだけ、健常者はそれをカモフラージュする術に長けているだけに過ぎません。だから短所はいい、「みんな自分の長所だけでやろう」って、短所は仲間で助け合えばいいと約束しました。そうすると、仕事の丁寧さや集中力はもう叶いません！

それで、スターバックスの担当者さんが言うんです。「障がい者のための労務管理をつくるつもりだったが、結果、健常者にとってもいいものになる」って。そりゃ、そうです。長所を生かしてお互い助け合う職場なんですから。

村橋 へえ、面白いですね。

海津 そうして何人もの障がい者がベストを尽くすうちに、パン焼きから始まり、つぎにレジ打ち、そしてカフェで接客もできるように。終いにはこの仕事

海津 歩 社長



村橋利恵さん

は絶対誰にも渡さないって意識込みで、すごいプライドを持ってみんなが働いています。

村橋 そうですね。能力を引き

新しい挑戦 在宅重度の障がい者雇用

村橋 さて、10年目のステップアップとして、今後の展望をお聞きしたいのですが。

海津 大きく三つあります。

も挑戦していました。パンづくりのバックヤードから接客の分野へとという具合にです。

つぎに私たちは、働く意欲があっても外出が困難な在宅重度の障がい者雇用を今年より開始します。

スワンの商品は直接、お店で販売されるほかに、インターネットやヤマト運輸による物販があります。ここで発生する受発注管理などのパソコン業務を、在宅重度の方にお願しようというわけです。家から出るのが難しい方に対し、こちらから仕事を届ける逆転の発想です。

二点目は加盟店全店の足下を見直す作業です。先日も塩崎官房長官が赤坂店に視察に来られるなど、創業時にも増して、スワンに対する社会からの期待や使命が大きくなっていきます。

障がい者雇用や食の安全・安心を維持、向上できているのか、厳しく確認する一方で、各店の良いところを全店で見習っていく、改善思考を持った組織への成長を目指します。

最後が商品開発の取り組みになります。

まず、地域振興に的を絞ったアプローチの好例が、すでに人氣の「ひこにゃんマドレーヌ」です。彦根築城400年祭の

地域キャンペーンにヤマト運輸滋賀主管支店が協力しました。そこにスワンが商品力を発揮することで「三方良し」の関係が築けています。

また、高齢者の朝食がパン食に移行しているという実態に着目して、健康を考えたおいしいパンの過疎地へのデリバリーや、8歳程度までの子どもの10%がかかっているという乳・卵アレルギー対策ケーキの販売を計画しています。

スワンは障がい者雇用を真剣に考えています。同時にお客様にはちゃんと商品力で選んでいただきたい。だから「儲かるものなら何でも」というのはスワンではありません。そこには社会起業（ソーシヤル・ベンチャー）の自負があります。

村橋 宅急便と同じで、小倉前理事長の「これは社会の為になるサービスなんだ」という信念があるわけですよ。

海津 ええ、そうです。小倉さんの生んだ宅急便とスワン。同じ社会的起業の遺伝子を持った存在が、互いに協力してその価値を高め合い、社会問題の解消に幾ばくかの貢献が果たせる——。そんな展望が描けるんじゃないかと、10年の節目に感じています。

小倉昌男前理事長を偲ぶ

「三回忌によせて」

6月30日、当財団を創設された小倉前理事長の3回忌を迎えました。生前、ご縁の深かった方々に思い出を語っていただきました。



清廉で、

人を支える温かさがあつた



立田清士さん

ヤマト福祉財団理事

東京高等学校（旧制）同級生

小倉君とは旧制東京高等学校（東高）以来の友人ですから、お互い12歳のときからということになります。私は数少ない地方出身の生徒で、同じクラスになった彼はいろいろと世話を焼いてくれました。それからの4年間、尋常科では不思議なことに小倉君とはずっと同じクラスで、性格はまったく違いますけれど、自然と仲良くなりました。彼が庭球部のときペアを組んで、学年対抗のテニス大会

で優勝を飾ったこともあります。彼は人の好みがはっきりしていて、人間性を排して役人風を吹かせる官僚はとくに嫌いでした。でも、同級生には私も含め官僚になった者がいます。しかし彼に言わせると「こんな官僚はいない！」と笑っていましたね（笑）。小さい頃のお互いを知っていますから。彼は不思議な人で、仕事で我々役所をつかうことは一切ありませんでした。縁故で便宜を図ってもら

ことを好まない……。それもまた彼の魅力でした。

彼とはよく旅行にも行きました。一度、東高同窓会の催しとして、二人で阿波踊り見物を企画したことがあります。往復を客船「飛鳥」の船旅という趣向です。彼はせっかくだから踊りを練習しようと言いついて、船上で練習を！と皆さんの同窓生が参加した愉しい思い出となりました。

彼は人情家で人の気持ちをよく察する男でした。また、カトリックの信者でフランシスコ・アジジの霊名を持っていました。「理解さ

れることよりも、理解すること。愛されることよりも、愛することをもとめます」これは小倉君が好んだアジジの言葉です。彼はまさにそれを実践した人物でした。



手作りのテニスコートで、小倉前理事長



同窓生と楽しんだ阿波踊り、小倉前理事長と奥様がた

鮮烈な印象の学生時代



熨斗隆文さん

ヤマト福祉財団理事
東京高等学校（旧制）同級生

争は負けだな。覚悟だけはしとこうな」と。やはり彼には飛び抜けて物を見る目があつたんでしょ。

戦後、僕らは

帰還して再び大

学に戻りました。

当時の大学は戦時追放され

た先生がたくさん復職し、どの

講義もマルクスのオンパレー

ド。資本論を知らないことに

は、講義を聴いても何一つ分

らない有様でした。そこで仕方なく、小倉を

め数人が集まって資本論の勉強会を何回かやりました。その最終回です。最後に参加者が一言ずつ感想を言いあうことになりました。為になった、なんて真面目な感想を語る友人たちの中で一人、小倉は「マルクスは資本家のする金儲けの方法を教えてください」と言っただけです。痛烈な皮肉だと僕は感じましたね。資本論には労働者搾取が執拗に書かれているわけですから。

そんな怜悯な彼は、お母様を早く亡くされたせいも、寂しがり屋でもありました。だから僕ら仲間の世話もよくやってくれたのかも。しれません。

東高時代の小倉は、しゃかりきになって勉強するという風ではなかったし、スポーツもそれほどはなかったけれども、テニスは好きだったようです。

1年の時のこと。将来の目標として小倉は、「東京帝国大学の経済学部商業学科に行つて、父の大和運輸を継ぐんだ」と言つたんです。まだ12歳かそこら。その歳ではつきりした目標を持つている奴なんてそうはいません。印象的でした。結局、彼はそれをやり通しましたね。

それから4年。昭和16年12月8日に大東亜戦争が始まります。世間は真珠湾の戦果に大騒ぎ。でも忘れもしない。僕らはその日の朝、寮で話をしました。滅多なことは口にできない時代でしたが、小倉ははっきりと言いました。「この戦



全クラス対抗で優勝した体育祭（昭和17年11月） 後2列左が小倉前理事長、後列右が熨斗さん、前から2列目右に立田さんの顔も見える

「ほっとけやん」で 共鳴した出会い



伊藤静美さん
社会福祉法人
「一麦会・麦の郷」理事
第一回ヤマト福祉財団賞受賞

人が人間らしく生きるにはなかなかだと言っても経済的な自立が必要で。稼がなくては恋愛もできません。そうしたニーズに応えようと、私たちは、行政を当てにせず、独立独歩、地域の方の支持だけを頼りに無認可共同作業所を開所。90年には日本で最初のソーシャルファーム（精神障がい者福祉工場）「ピネル」を開きました。そんな私たちの元へ小倉さんが見学に見えたのは10年ほど前のことです。当時、私はどんな人かまるで分からず、ふつうのおじさんだと思っていました（笑）。

ピネルではすでに社会保険つき月給11万円を実現しているとお話すると、他の作業所との違いにものすごく驚き、「寄付をしたい、また改めてゆっくり話したい」とおっしゃってくれました。

対談はその後、きょうされんの情報誌記事として実現します。ヤマト福祉財団賞の第一回受賞者に選んでいただき、式で両手を握って「麦の郷、頑張れ！」と励ましてくださいました。

〈麦の郷〉の原動力は「ほっとけやん」。和歌山弁でほっとけないよ、の意味です。小倉さんも同じだったのではないのでしょうか。ご自身では福祉の専門家でないことを気にされる面もあつたようですが、私は市民感覚の健全さとパワーを身をもって知っていますので「素

人だからおかしいことはおかしいと、月給1万円の理不尽さを訴えられるんですよ」と言うのと、うんとうなづかれていたのを思い出します。

きょうされんの30周年を記念する映画が来春公開されます。有り難いことに〈麦の郷〉がモデルです。小倉さんにはぜひ見ていただきたいかったですね。



月刊きょうされんTOMO No225（1998年12月15日発行）「新春てい談」より、小倉前理事長と伊東静美さん（右）



財団賞正賞になった、母子像の原型

裸の母子像の方がいいのではないかとという話になり、立像と座像、それに腰掛け像の原型を製作しました。中から、小倉さん

前理事長は革新的な考えを持つ経営者であるばかりでなく、非常に芸術に理解があり、奉仕の精神も持ち合わせた方でした。

小倉前理事長に直接お目にかかったのは、僕のアトリエでした。ヤマト福祉財団賞を設けることになり、ブロンズ像制作のご依頼を受けたのです。印象的だったのは「単に受賞記念の品ではなく、芸術作品をつくってほしい」と強くおっしゃっていたことです。こうしたロフイー的なものは、副賞にするのがふつうですが、こちらを正賞にするとおっしゃられて…。

当初はノーマライゼーションの父・ミケルセンの胸像を、その後、裸の母子像の方

が選ばれたのが腰掛け像。ポーズゆえに仕上げまでの難易度が一番高いものをお選びになったので、正直これは参ったなと（笑）。でも、これで正解だったと僕も思っています。

財団賞は毎年催す予定だとお聞きしたとき、僕は半信半疑でした。そうした素晴らしい活動をされている方々がたくさんいらっしゃる、にわかには信じられなかったのです。第一回目の授賞式でそんな僕がわんわんと泣くほどに感激しました。障がい者の置かれている状況、そしてその自立を支えようとする多くの方々の存在を、深く実感したからです。



兩宮 淳さん
彫塑家
ヤマト福祉財団小倉昌男賞正賞のブロンズ像「愛」を製作
日本芸術院会員、日展常務理事、日彫会常務理事

「芸術作品をつくってほしい」 財団賞のブロンズ賞

ヤマト福祉財団賞 受賞者は今……

渋谷の街中にあざやかに 福祉の虹を描くパレット

谷口奈保子さん

特定非営利活動法人ぱれっと 理事
ぱれっとインターナショナル・ジャパン 代表



『ぱれっと』という法人名は、絵を描くときに色を混ぜ合わせ、新しい色を生み出すパレットをイメージして名づけたといいます。24年前、渋谷の街の一隅に知的障がい者らの『たまり場ぱれっと』を設けたのを皮切りに、『ぱれっと』はまさにパレットさながら、次々と新しい色の虹を描いてきました。その組織の牽引車、第4回ヤマト福祉財団賞（現小倉昌男賞）受賞者の谷口奈保子さんに登場していただきました。

『人間大好き』が活動のエネルギー源 福祉は都市のド真ん中でこそやるべき

「あなたのエネルギー源は何ですか？ とよく人にきかれる」と谷口さんは、その編著書『福祉に発想の転換を！』の中で書いています。が、明確に答えられない。「強いていえば、人」が好きなのだろう。それも「人」という存在が好きなのだ。人との出会いに興味津々である」と述べていま

す。

自らを的確に語った言葉だと思えます。この「人間大好き」の精神が、みんな集まってきたらいい、と障がい者をはじめ、若者たち地域の仲間を呼び寄せ、渋谷の街中に未来への可能性をいっぱい秘めた福祉コミュニティを築きあげました。

NPO法人にしたのは、いつまでも自分一人が責任を負うという組織ではだめだと考えたから。「たまり場」をつくってから15年も経っていました。なぜNPOにしたのか。最初は社会福祉法人も考え、なんども行政に足を運ぶ。行政はその実績をみて理解を示したが、



●「Restaurant & Bar palette」スリ兰卡カレーを中心にお酒も提供するレストラン



● クッキーの種づくりから袋詰めまですべて手作り



● クッキーとパウンドケーキの製造・販売を行う「おかし屋ぱれっと」。スタートは22年前、働く場としての「ぱれっと」のスタートとなった

繁華街の渋谷区には施設設置で案件にかなう場所がない。どこか郊外に探したら、と言われたが、こういう仕事こそ都市の下真ん中で

愛娘の死が福祉への道歩ます 限られてきた生活圏の拡大へ

やるべきだという信念が谷口さんにはありました。社会福祉法人を断念したとき、NPOが出てきました。

元をたどれば、まだ3歳半の愛娘の病死。小児ガンでした。谷口さん33歳のとき。

あと1年の寿命だと医師から告げられ目の前が真っ暗。刻、一刻とおさな子に死が迫ってくることの苦しさ、恐ろしさ。三児の真ん中でした。谷口さん自身、当然ながら「過酷な体験だった」と言います。

その辛い体験を経て、なんとか子どもの死をむだにしたいという思いがつよくなってきます。はじめは「小児ガン110番」といった組織を立ち上げ、自らの体験をもとにガンに苦しむ子どもやその家族らのよきアドバイザーの仕事がしたいと考えました。とりあえず子どもが世話になった病院に通い、難病に喘ぐ病児らにケアの手を差し伸べます。中学生ら年長児には英語の指導も。英文科出身の語学力が役立ちました。そして3年――。

物足りないものを感じるようになる。果たしてこんなことをやっているだけでよいのか――。本当に苦しんでいる人たちのために役立つ活動をするためには、ボラン

ティアの面からだけでは十分な成果が得られないのでは？

夫に相談。「なら、もう一度大学に入って福祉の勉強をしてみたら」と勧められます。そこで母校の明治学院大学の福祉学科に編入。一から福祉の勉強を始めます。そのとき37歳。

在学中、教育実習生として地元養護学校へ。そこで週1回、2年あまり教師ボランティアをやるなかで知的障がい児らとかわり、その実態を深く知るようになる。

「わたし、幼い子供を失ったらしい体験は持つが、障がいのある子を育てた経験はない。見ることに聞くこと新しいことばかり。が、その中には、何故？ どうして？と思うことがあまりにも多い」と谷口さん。

目で見てそれと分かる障がい者は理解しやすい。が、知的障がい者は、一見、それと分からぬことが少なくないし、当時は、まだ知的障がい者の多くが家の中に閉じこもった生活をしていたので、一般の人には彼らのことがほとんど知られていない。知られていなくて世の中はそれで済んじゃっている。

それはしかし、同じ地域で暮らしていかないと働いたり遊んだり自分らと一緒に働いたり遊んだりというのが本来あるべき姿ではないか。彼らの親たちが抱えている問題を、自分たち一般市民もたてえ少しでも共有すべきではないか。



● 店舗のデコレーションも手作りのあたたかさが伝わってくる。店の奥が工場になっている

また、障がい者であれ少なくとも18歳を過ぎれば、親まかせにしないで、社会がちゃんと彼らを受け止めるべきだと谷口さんは考えます。

1983（昭和58）年、『ぱれっと』を設立。知的障がい者と彼らを取り巻く人々のため場づくりがそもそもの発想。障がい者の生活パターンには、自宅と学校、もしくは自宅と作業所を結ぶ「線」しかない。それにもう一つ生活拠点をつくって「面」にしようと思った。障がいゆえに限られてきた生活圏の拡大です。場所は谷口さんの自宅に近い渋谷区恵比寿。ビルの一室を借りて、障がい者だけじゃない、一般の人、ボランティアの人、誰でもいいからいらっしやい、という空間を設けた。そこでおしゃべりをし、ゲームをし、料理づくりなどもする。「たまり場ぱれっと」のスタート。

2年が経過。障がい者らの生活を考えると、たまり場だけでなく、



●「たまり場ぱれっと」は、障がいもある人もない人も月に自由に集まって余暇を楽しむ活動。写真は「感じて表現つながるアート」と題したワークショップ(上)、夏の行事(上中)、ティーボール(下)はさまざまなクラブ活動のひとつ



何か働く場、収入を得る場がほしいと思う。といって障がい者が働く共同作業所などの実態を覗くと、月額3〜4000円程度の収入しかない。自分で生きていくだけの収入を得、しかも自らの手でつくり、その商品対価としての収入。それに何より誰にでも分かりやすい業種はないか。地域の住民、若者もお年寄りも誘い込んでかんかんがくがく(「人間大好き」の谷口さんの面目躍如)。その結果、決まったのがクッキーの販売。

業種は食品、というのが初めにあったが、クッキーとなった決め手は、商品の衛生管理が比較的難

しくない、製造工程が複雑でない、商品ロスがあまり出ない、など。1985(昭和60)年4月、「ぱれっと」にとつて第2ステージ、「おかし屋ぱれっと」が船出します。

専門家の助けもあったが、クッキーの評判はすべり出しから上々。初年度から約700万円の売上げを記録しました。六畳二間の狭い部屋に家庭用の道具を持ち込み、朝から夕方までせっせとクッキーづくりに励む。谷口さんにとつても「ぱれっと」にとつても新しい時代の始まりでした。

滋賀県から糸賀一雄記念賞を受賞 五つの拠点をつくり後進に道

今、「ぱれっと」の傘下には、おしゃべり、旅行、スポーツなどを通じての障がい者を中心に人々の交流を目的とする「たまり場ぱれっと」、クッキーづくりの「おかし屋ぱれっと」、スリランカ料理で人気のお店「Restaurant & Bar palette」、そしてグループホーム「えびす・ぱれっとホーム」があります。これらの施設を利用し、また、店舗で働いている障がい者は約50名。働いている障がい者の給料は、月平均4万円から9万円。

このほか、国際支援事業を目的とする「ぱれっとインターナショナル・ジャパン」があり、1999年から、スリランカの障がい者が働くクッキー工場を国内に設立、運営しています。

谷口さんは昨年、長年にわたる障がい者福祉活動が評価されて、糸賀一雄記念賞を受賞しました。

この賞は、戦後、滋賀県にあって近江学園、びわこ学園の創設に努力し、「この子らを世の光に」と訴え続けるなど、知的障がい者の教育に貢献した故糸賀一雄を記念して滋賀県が設けているもので、この分野では最も有名な賞です。

受賞と前後して谷口さんは、NPO法人ぱれっとの理事長を退任、今後は一理事として活動していくことになりました。

「今、「ぱれっと」では次の世代が育ちました。バトンタッチの時



● 恵比寿の駅から10分ほどの住宅街にある「えびす・ぱれっとホーム」



期がきたので「と谷口さんは「福祉に発想の転換を！」のあとがきで述べています。が、谷口さんは今、次の飛躍に備えじつとエネルギーを蓄えているときであろうことを誰も信じて疑いません。

取材・文 高田三省



● スリランカの障がい者就労支援を目的に設立された「スリランカぱれっと」。現地で手に入る材料を使い、クッキーの製造・販売を行う



▲配達途中で小谷宅急便センター長に声をかけて「お金になるのがうれしい、メール便の配達が少ないときがづらいです」と富田圭介さん(左)と矢野智久さん(中央)



障がい者の
クロネコメール便配達

僕たちには、
何もする仕事
がなかったら
月収1000円から
1万円を稼ぎ、
さらに飛躍へ

「障がい者のクロネコメール便配達事業」
問い合わせは (財)ヤマト福祉財団 押尾
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165
Email y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp

大分主管支店 萩原メール便センター
(管轄エリア10町)
面積13.0km²/人口35,457人/世帯数16,440世帯

身体障害者小規模通所授産施設 どんぐりの家
(身体6名、精神8名、知的1名)
2006年2月メール便配達開始。当初1日10冊ほどからスタートして6月に956冊(月間)、2007年4月には1,758冊(月間)と実績を上げています。クロネコメイト在籍7名、1日平均4~5稼働(6月現在)。メール便配達のほか、名刺印刷やクリーニングの取り次ぎなどを行っています。

日豊本線大分駅から、車で20分ほどの郊外に、メール便配達に特化したスリーター(自動三輪車)ライダーの萩原メール便センター。参入を断るつもりで訪ねた施設で「仕事をさせてください。やらせてみてください。」と深々と頭を下げる施設長のひたむきな熱意に、「やれるゾー」を直感。2006年1月、大分での初自配化体制エリアに、「どんぐりの家」のクロネコメイトさんが誕生しました。

あいさつは、
「今日は何冊？」

自主製品をつくったり、下請け作業を行う創作班7名に危機的な状況が訪れたのが一昨年秋——と、話し始めた施設長の松崎昭夫さん。
手袋を仕分ける下請け作業がなく、班の収入が月800円、という事態に追い込まれました。
することがなく、全人格を否

定されたような辛い日々…。この状況からなんとか抜け出した。
創作班のメンバー全員で話し合い、考えました。

『自分たちの足りない点は何か、——市場で売れるような製品がなかなかつくれないこと。そして営業が苦手なこと。でも、人一倍の体力が自分たちにはある。』配達事例集で見たメール便の配達なら、僕たちにもできるんじゃないか?——そんな結果を施設長に話しました。施



◀施設から遠いエリアを自転車配達する業師寺澤也さん。「将来は自分の料理を出せるちっちゃいお店を持ちたいナァ」

▶大分合同新聞で紹介された「どんぐりの家」のメール便配達 (2007年4月15日朝刊)



「私も事故で6年もの間、何もする仕事が無かった苦しい想いを体験しています。『どんぐりの家』のみなさんの『僕たちにも、この仕事ができるんだ』という気持ちで、ひしひしと伝

僕たちに対する地域の理解が「応援団」

「私も事故で6年もの間、何もする仕事が無かった苦しい想いを体験しています。『どんぐりの家』のみなさんの『僕たちにも、この仕事ができるんだ』という気持ちで、ひしひしと伝

設長は、彼らなら、地図を見て届け先を確認してポストに配達する。『一連の仕事の流れ』を理解できない。設備投資がかららない。何より大きな魅力は「仕事がなくなくなる心配がない」。——仲間たちの総意でメール便配達事業へのエントリーを決めました。

開始当初、施設周

辺のエリアを10冊の配達からスタートして徐々にエリアを拡大。1年を経過した今では、5エリアを担当し、1日3時間程度で250冊の配達を余裕をもってこなします。班の月収も、昨秋には目標の8万円を達成するまでになりました。

今では、毎朝の「おはよう」が「メール便は何冊きた?」というあいさつに変わっています。

わってきて…」と話す安東京子メール便センター長。「私が毎日施設にメール便を届けに通って、情報を共有しているこうと思っただけです」

安東センター長は、『どんぐりの家』のクロネコメイトさんに、住所が尋ねあたらぬ不明なメール便や、気をつけなければならぬ配達の手配を紙に書いて渡します。この1年、毎朝顔をしながら声をかけ、信頼関係を築いてきました。

「コミュニケーションが一番大事だと思います。一般のメイトさんと変わらないですよ。『どんぐりの家』のクロネコメイトさんは地図も宛名もひとつひとつ確認して配達する、思いこみがありません」。

メール便課長の阿部啓二さん、はこんなエピソードを話してくれました。

「宅急便のクレームでお伺いしたお客さまから、ヤマトさんは『どんぐりの家』のような人たちが応援するいい仕事をしているね、と逆にお褒めの声をいただいたことがあります。地域の中に『どんぐりの家』さんが溶け込んでいるんですね。メール便配達を通して地域の人たちのあたたかな「応援の輪」が広がっているような気がします」。

自分たちがサービスの担い手になる喜び

従来、サービスの受け手だったみなさんが、今、サービスを提供する側にいる。——そこが以前と決定的に違うところだと松壽施設長は言います。風邪で休んでも「メール便は多いですか?」と心配の電話をしてくれます。「障がいがあっても問題なく働ける。ただ身体の一部に障がいがある健常者。というように私には見えます」。メール便配達を始めて2ヵ月ほど経った頃、「自信がついたので外で働いてみたい」と、メール便配達を卒業して、一般企業に就職していた人もいます。

「今まで、施設に来て何となく1日を過ごしていたみなさんが、働くことで性格まで変わり、まったく別人のようです。自信に満ちあふれていますよ」。

「今後は、作業所レベルから企業レベルの365日営業を目指す」



▲松壽昭夫施設長「人に必要とされる、仕事があるというのはいいですね」

し、ビジネスパートナーとして頼りにされるメール便配達に特化した作業所を立ち上げたい。みんなの中に、『自分たちは、もっともつと働けるんだ』という。新たな挑戦に対する熱い想いが生まれています!



▲「あなたの笑顔が好き」とお客さまから

◀萩原メール便センターの前で。右から佐藤広明スーパーバイザー、安東京子メール便センター長、阿部啓二メール便課長。「『どんぐりの家』さんのように自らの道を切り開いていく情熱の大切さを、ぜひ紹介したいですね」と目野和彦財団九州支部事務長



スワン ネット

swan net

つながるビジネス

干しいたけの 生産から販売まで——、 障がい者の手で急成長

●干しいたけ生産施設●
社会福祉法人はんとく苑
宮城県登米市米山町
知的障がい者利用施設 50名在籍

売り切れが出るほど
人気の干しいたけ

「障がい者施設がづくり、障がい者施設で販売して、
両者がプラスになる」——小倉前理事長の願いが、
干しいたけの生産と販売を通して実現しています。

東京都の委託施設であるはんとく苑（宮城県）が生産しているおいしい干しいたけを、スワンネットが仲介して、全国の障がい者施設で販売するビジネスが、急成長しています。昨年は売り切れが出るほど好評でした。

はんとく苑は東京都の委託を受けた、知的障がい者の入所施設です。7500坪の敷地には、入所施設、畑、炭焼き窯が点在し、隣接する森には6万本のしいたけ畑があります。はんとく苑では、設立した12年前から、利用者の作業に、しいたけの原木栽培を取

り入れてきました。

しいたけの収穫は年に一度、それも2週間ほどしかありません。利用者は、その時期を指し、雨の日も雪の日も毎日、作業を続けています。生産量は約800kg、宮城県の椎茸品評会で毎年高い評価を受ける品質で、今年も奨励賞を受賞しました。

スワンネットと
ビジネスパートナーに

質・量ともに市場で引けをとらない商品を生産しても、はんとく苑は「販売」のノウハウを持っていませんでした。できあがった干しいたけを、選別や袋詰めをすることもなく、バザーや農協に、一括で卸すだけ。収入は、その年の原木代やしいたけ菌代を捻出できるかどうか、という状況だったのです。

東京都から相談を受けた小倉前理事長は「それなら、スワンネットが扱ってみよう」と、スワンネットが仲介するビジネスが始まりました。2003年5月のことです。

生産から販売まで
両者がプラスに

スワンネットと取引したばかりの頃は3カ月間で14袋を売るのが、やっとの状況でしたが、品質のよさが口コミで広がり、昨年度（2006年4月～2007年3月）は、全国52カ所の施設・作業所販売店へ約5200袋を卸す実績を伸ばし、昨年には、「売り切れ」状態になるほどの人気商品になりました。もちろん、「赤字の心配も

国立市心身障害者
共同福祉作業所
天成舎

高い販売実勢を持つ天成舎さんです。店頭販売をはじめ、食堂など定期的にご買っていただくお客さまにお届け販売をしています。



スワンカフェでクロネコ
アート展の作品を巡回展示
(5月17日から10日間)



栃木県小山市で
生きるあかし「鈴木時治油彩展」
～8月5日から

ハンセン病療養所に60年以上隔離され、絵筆を握り続けた画家、鈴木時治さん(前橋市出身、2003年に77歳で死亡)の遺作展が栃木県小山市で開催されます。病気の後遺症で視力を失い、両手も不自由だった鈴木さんが『生きるあかし』としてキャンパスに残した作品36点が展示されます。この作品展にヤマト福祉財団が協賛しています。

- 主催 「鈴木時治油彩画作品展」実行委員会
- 会期 2007年8月5日～19日(木曜休廊)
- 会場 ギャラリーA i (栃木県小山市犬塚)
- 時間 10:30～18:30 (最終日18:00)
- 料金 入場無料



キャンパスに向かう鈴木さん

「おらとこのだるま」
二科展入選 1973年



10kgもする原木を、移動させます。原木に太陽や風、雨がまんべんなく当たるように、毎日行う作業です。

「障がい者施設がつくり、障がい者施設で販売する」スワンネットが両者をつないで、それぞれがプラスになって、小倉前理事長の願いが、一歩ずつ実現しています。

● 「障がい者施設がつかない、障がい者施設で販売する」スワンネットが両者をつないで、それぞれがプラスになって、小倉前理事長の願いが、一歩ずつ実現しています。

「障がい者施設がつかない、障がい者施設で販売する」スワンネットが両者をつないで、それぞれがプラスになって、小倉前理事長の願いが、一歩ずつ実現しています。

「障がい者施設がつかない、障がい者施設で販売する」スワンネットが両者をつないで、それぞれがプラスになって、小倉前理事長の願いが、一歩ずつ実現しています。



50g×10袋セットで
4,800円(送料込み)
30g×20袋セットで
5,800円(送料込み)

お問い合わせは
株式会社スワンネットまで
TEL03-5148-1066 FAX03-5148-1067
mail : kadowaki@swannet.jp
H P : http://www.swannet.jp

華やかなレビューに感動

雪組公演、宝塚大劇場



雪組公演「エリザベート -愛と死の輪舞-」2007.5.4-6.18
制作・著作／宝塚歌劇団©

宝塚歌劇団、雪組トップスターになられた水夏希さんのはじめての公演「エリザベート」に6名の障がい者とその介護者が招待され、華やかなレビューをたんのうしました。水夏希さんの後援会である「水の会」の会長であった小倉前理事長の志をくまれて「水の会」から招待されたものです。なお、東京公演は7月～8月に行われます。



劇場の車椅子スペースの関係で2回に分けて実施されました（5月18日、28日）



スワンベーカリー新座が「ハートフルフェア」に参加

大型スーパーの新座サティ(埼玉県新座市)で「ハートフルフェア」が4月24日から30日の間で開催されました。この企画は新座市にある10カ所の施設・作業所が参加した自主製品の展示・販売会です。スワン工舎新座のスワンベーカリーも参加しました。



新座サティ特設コーナーで開催

スワンカフェで懇談会



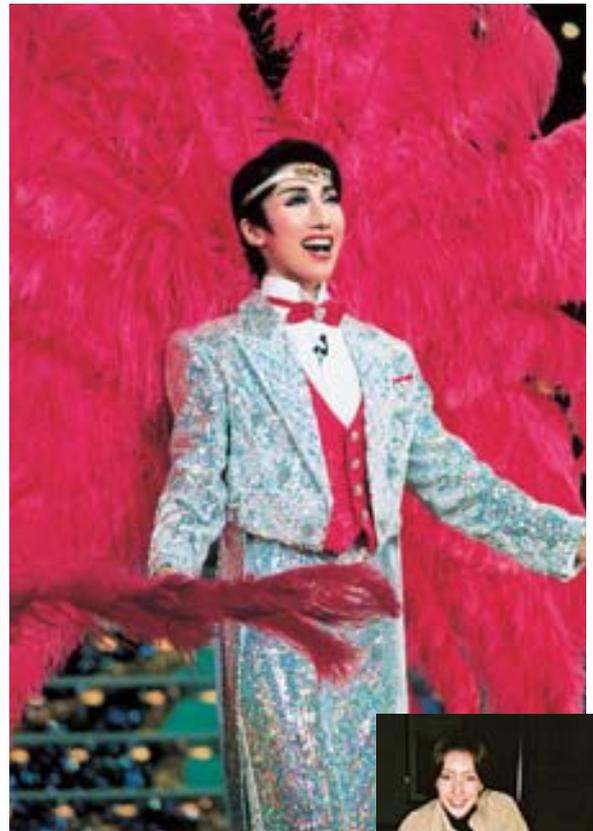
ヤマト運輸の来年度入社内定者の懇談会がスワンカフェ銀座店で行われました。

銀座をきれいに！ 毎月1回の クリーンアップ作戦

スワンカフェ & ベーカリー銀座店(東京都中央区)がある銀座・昭和通り沿いの一角を、毎月1回、スワンのスタッフがクリーンアップ作戦を行っています。



メンバー全員で街のクリーンアップ



雪組トップスターになられた水夏希さん
制作・著作/宝塚歌劇団©



在りし日の小倉前理事長と、水夏希さん

障がい者文学の金字塔 花田春兆さんの句集 「喜憂刻々」 発刊



お求めは書店、または出版社へ
定価2,500円
発行元 株式会社文学の森
東京都新宿区高田馬場
2-1-2(田島ビル)
TEL03-5292-9188

父とならむ喜憂刻々除夜の星
生くるべし炎天を航く車椅子
仏にも鬼にもなれず汗の顔

花田春兆さんは大正14年生まれ、今年82歳。出生児より脳性マヒのため、歩行、起立不能、言語障害あり、重度の障がいを持ちながら障害者文化に力を注ぎ、「いくつになっただら歩けるの」「日本の障害者」「目で見る「心」のバリアフリー百科」句集「天日無冠」句文集「折れたクレヨン」など著作が多数あります。今回、40年ぶりの第2句集を上梓されました。



花田春兆さん



ピエール＝オーギュスト・ルノワール
[ルグラン嬢の肖像]

1875年/Philadelphia Museum of Art, The Henry P. McIlhenny Collection in memory of Frances P. McIlhenny, 1986

ART HEALING

フィラデルフィア美術館
印象派と20世紀の美術



フィンセント・ファン・ゴッホ
[オーギュスティヌ・ルーラン夫人と乳児マルセルの肖像]
1888年、または1889年/Philadelphia Museum of Art, Bequest of Lisa Norris Elkins, 1950

19世紀から現代まで、 時代を代表する巨匠が一堂に



パウル・クレー [魚の魔術]
1925年/Philadelphia Museum of Art, The Louise and Walter Arensberg Collection, 1950



アンリ・ルソー [陽気な道化たち]
1906年/Philadelphia Museum of Art, The Louise and Walter Arensberg Collection, 1950

■京都展

会 期▶2007年7月14日(土)～9月24日(月)
毎週月曜日休館(祝日の場合は開館)
会 場▶京都市美術館(京都市左京区岡崎公園内)
●JR・近鉄京都駅前[A1のりば]から市バス5番岩倉行、[D1のりば]から市バス100番銀閣寺行「京都都会館美術館前」下車
●阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番岩倉行「京都都会館美術館前」下車
●地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩10分
開館時間▶9時～17時
※8月16日と17日以降の金曜は午後19時まで開館。入館は閉館30分前まで

■東京展

会 期▶2007年10月10日(水)～12月24日(月)
毎週月曜日休室(12月24日は開室)
会 場▶京都美術館(東京都上野公園内)
●JR「上野駅」より徒歩7分
●京成電鉄「上野駅」より徒歩8分
●東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」7番出口より徒歩10分
開室時間▶9時～17時
※入室は閉室30分前まで

観覧料金▶

	一般	大学生	高校生
当日	1,500	1,200	800

■京都展

- 障がい者手帳、京都市敬老乗車証を提示の方は無料
- 京都市内の小中学生は土・日無料

■東京展

- 中学生以下、障がい者手帳を提示の方、および介護者1人は無料

主 催▶【京都展】京都市美術館、読売新聞大阪本社、読売テレビ、美術館連絡協議会、フィラデルフィア美術館 / 【東京展】東京都美術館、読売新聞東京本社、日本テレビ放送網、WOWOW、美術館連絡協議会、フィラデルフィア美術館

問い合わせ先▶

■京都展 京都市美術館 TEL075-771-4107

■東京展 東京都美術館 TEL03-3823-6921

展覧会ホームページ <http://www.phila2007.jp>

フィラデルフィア美術館(アメリカペンシルバニア州)が、所蔵する名画が一堂に展示されています。
19世紀のゴッホ、印象派を代表するモネ、ルノワール、ゴッホ、20世紀のピカソ、マティス、アメリカ現代画家のオキーフまで、ヨーロッパとアメリカの近現代絵画の77点(日本初公開含む)が、海を越えてやってきました。
京都市美術館では9月24日までの開催。東京都美術館では、10月10日から12月24日まで開催されます。
創立130年を超える歴史と、ヨーロッパとアメリカの近現代絵画では、第二級のコレクションを持つフィラデルフィア美術館の作品がまとまって展示されるのはまれなこと。この美術展はヤマトロジスティクス株式会社が協力しています。

ヤマト福祉財団全国支部連絡先 (ヤマト運輸(株)内)

支 部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	平井 忠	TEL.022-374-8065
東京支部	名古屋健史	TEL.03-5564-3705
関東支部	森田雅哉	TEL.045-508-6106
北信越支部	酒井 貢	TEL.025-231-9512
中部支部	矢野静香	TEL.0561-61-5111
関西支部	石田久雄	TEL.06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	内山 修	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3340
沖縄支部	松茂良興三	TEL.098-840-3605



中部支部
矢野静香新事務長が就任
しました。
よろしくお祈りします。

古紙配合率100%の再生紙とアメリカ大豆協会認定の大豆インクを使用しています。

